

令和6年度
専門学校 静岡工科自動車大学校
学校評価書(学校関係者評価)



専門学校 静岡工科自動車大学校 校長 古澤 浩一
静岡工科自動車大学校評価委員会 委員長 長尾 智晃

(1) 教育理念・目標

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	経営理念、教育理念を定め、職員に周知徹底をしている。 教育の柱となる3つのポリシー(DP、CP、AP)を策定し、公開している。	4	特になし。	特になし。
・学校における職業教育の特色は何か	現場のニーズを的確に捉えるために10社の企業と契約し、現役整備士による実習授業を展開した。資格取得に向けた学習は本校教員が担当し、主要実習は現役整備士という分担が成功した。	4	特になし。	・職員の異動はあったか。 ・前後期で10社ですか。
・社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	中期構想として第10次中期経営計画(2022～2024年度)を策定し計画を推進した。	4	特になし。	特になし。
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・父母等に周知されているか	3つのポリシー(DP, CP, AP)を策定し学生便覧に掲載している。 また学校情報をホームページ上で公開している。	4	特になし。	特になし。
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	企業と連携した授業やインターンシップにより学生が直接業界ニーズを感じることができている。また育成人材像も毎年見直しを行い、業界ニーズに合致させている。	4	特になし。	特になし。

* 4.適切 3.ほぼ適切 2.やや不適切 1.不適切 NA.当てはまらない

今後に向けての学校の考え方

- ・現在、1年生の実習授業に神戸マツダ様も加わり、2年生の学科、実習授業にはトヨタユナイテッド様も実施して頂いている。
- また、国際オートメカニック科においても、新たにミャンマーから職員として採用の予定である。

(2) 学校運営

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	毎年度、目標と方針を策定し、職員全員に周知するとともに、各課においても目標と方針に沿った具体的な目標を定め、活動している。また、取り組み状況や環境に応じ柔軟に修正している。	4	自動車業界の環境が大きく変化しており、その影響が学校運営にも及んでいる。経営環境の変化に柔軟に対応できるよう情報収集、問題の共有化を推進したい。	特になし。
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	中期経営計画達成のため、毎年度の事業計画及び予算計画を策定している。 事業計画は令和6年度についても計画どおり執行した。	4	特になし。	特になし。
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか 有効に機能しているか	毎年運営組織・分掌を明示した組織図を作成し、職員に周知するとともに、意思決定機能も明確にしている。	4	特になし。	特になし。
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	服務規程により人事、給与については整備されている。また、労務管理について再確認し、より良い職場環境になるように見直しを行っている。	3	人事評価システムの改定は概ね良い方向に機能している。 「働き方」の意識改革が必要になるため様々な取り組みを行っている。	・労務管理をどのように行っているか。 ・サークル活動顧問はいるか。 ・昨年より自己評価上がっている。
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	組織整備については教務課、入試・進路課、総務課の幹部職員により協議、調整を図り、決定している。	4	常に話し合い意思統一を行っている。	特になし。
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	法令順守については個人情報管理等の規程を制定し運用している。 また、教職員業務対応手順を作成し、苦情等対応も含めた体制を整備している。	4	特になし。	・昨年より自己評価上がっている。

・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	文部科学省の情報公開ガイドラインに沿った学校情報をホームページ上に公開している。その他 SNS なども活用し、ほぼ毎日教育活動を発信している。	4	特になし。	特になし。
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	教務、募集、経理、勤務等を統括したシステムを運用しており、業務の効率化が図られている。また Google Workspace を活用した教育システムが機能しつつある。	4	情報システムのトラブルに対応できる職員が少ないため、対応できる職員の育成を行っていく。	特になし。

* 4.適切 3.ほぼ適切 2.やや不適切 1.不適切 NA.当てはまらない

今後に向けての学校の考え方

- ・給与形態を変更し、残業やイベント参加などにも対応するよう改善している。
- ・部活動はサークル活動に切り替えましたが顧問はまだ存在する。レース関係はレースを知る講師にお願いしている。
- ・地域とコミュニケーションをとり地域社会に貢献する活動を実施している。

(3) 教育活動

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	教育課程の編成については、「教育課程編成に関する規程」を定め、教育課程を編成及び実施している。	4	定期的に見直しを行っており、特に問題はないと感じている。今年度は新たな科・学年主任が就任し、今までとは異なる新たな視点からの先進的な意見・提案が発信されている。	特になし。
・教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	教育到達レベルと学習時間をシラバスに明記し HP上でも公開している。現在の学習時間は国土交通省が定める基準並みとしてあるため、限られた時間の中で最大限の効果が得られるよう活動を行っている。	3	令和7年度より、自動車整備士養成課程が改定される。次年度より新教育課程の運用を開始するが、時間数の削減による影響を慎重に考察していく必要がある。	特になし。
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	各学科の目標達成に向けカリキュラムが構成されている。国土交通省が定める指定基準に沿って、学期末ごとに全職員で見直しを行い、業界との格差が発生しないようにしている。	3	令和3年度に変更した国際オートメカニック科、及び、システム工学科3～4年次のカリキュラムが完結しつつある。教材、教場、教員など、割り当てを改善しながら完成に向かっている。	・留学生の増加に伴い職員の増員を行うか。
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	教務目標に社会人として必要な人間性(社会人基礎力)を身に付けることを目標としており、担任を中心に指導を実施している。学校関係者評価委員会の外部委員からの意見についても可能な限り導入している。	3	JAMCA より、コンプライアンス教育を目的としたテキストが公開された。次年度よりこのテキストを道標とし、コンプライアンス教育に力を入れることが求められる。シラバス見直しにおいて、必要な教育を盛り込んでいる。	特になし。

・関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	企業及び業界団体から委員を迎えてカリキュラム編成委員会を開催している(5月、8月の2回)その中で、新たな自動車整備士養成課程実施に向けたシラバスの見直しを行った。	4	今後も定期的に見直しを行い、企業ニーズに合った教育になるよう改善している。カリキュラム編成委員会からのご意見を取り入れ、整備作業アンケートの見直しを継続している。	特になし。
・関連分野における実践的な職業教育(产学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	すべての科においてインターンシップを実施している。また、企業と連携し一部の実習授業を自動車ディーラーの現役エンジニアに担当していただく仕組みを取り入れた。次年度は、さらに拡大する予定となっている。	4	企業側も学校教育に協力的であり、特に問題はないと感じている。人手不足の中、長期間に渡り講師を派遣していただいている企業から、業界を継続・発展させたいという思いを共有することができている。	特になし。
・授業評価の実施・評価体制はあるか	授業評価は年2回実施しており、各期末に全体の評価結果を公開している。また、評価の低い授業担当者には教務課長が個人面談を実施し授業のアドバイスを行うことで改善を図っている。	4	アンケート結果の目標を76%以上とし、個人の目標に結び付け評価している。A評価1・2学期平均で82.15%(R5年度は80.65%)と昨年度より1.5ポイント上昇した。引き続き高い評価を得ており、担当学年が変わっても安定した授業運営ができると考えられる。今後も学生に支持されるような教育活動を継続したい。	特になし。
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	学校関係者評価委員会により評価を行っている。	4	学校関係者評価委員会にて評価をいただいているので、特に課題を感じない。	特になし。
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	成績評価基準は学校側の主導により明確に定めてあり、学生には学生便覧(教務規定掲載)を全員に配布し周知徹底している。	3	基準は学生便覧(教務規定掲載)に明記されており問題はないと感じているが、その運用において経験年数が少ない職員は理解が進んでいない印象がある。定着するまで時間が必要と感じられる。	特になし。

・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	整備士資格以外はカリキュラム上には定められていないが、放課後等を利用し、資格取得のサポートをしている。必須資格と選択資格に分け学生の能力・ニーズにより選択できる体制をとっている。また、自動車運転免許取得の必要性を改めて捉えなおしている。	4	自動車運転免許に係る資格取得を改めて見直し、より必要性の高い種目、また、取得の方法を学園全体で見直している。専門学校部門と教習部門が協力しながら効果的な運用方法を模索し検討している。	特になし。
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことのできる要件を備えた教員を確保しているか	第一種養成施設の指定基準に準拠する必要があるため資格や経験年数及び学歴等を満たした教員を採用している。	3	一級自動車整備士を取得している職員の割合は高水準であるが、専門学校的教員としてのキャリアが短い職員が増えている。将来に渡り高いレベルの教育を安定して提供するためには、定着率を高めるような対応策が必要だと考えられる。	特になし。
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	自動車整備業界からだけではなく、自動車整備機器取扱業界からの職員を採用することができた。また、外国籍社員の採用により、グローバルで実践的な教育を提供できる組織となり、国際オートメカニック科は大きく飛躍することができた。	4	令和6年度より、一部の実習科目の担当を自動車ディーラーの講師に依頼し、現役のエンジニアから直接指導を受けられる環境を整えた。また、外国籍社員は、自身の留学生としての経験を学生に伝えているなど、これまでにない優れた教員を確保することができた。	特になし。
・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取組が行われているか	自動車整備振興会による新技術研修は毎年全教員が受講している。また、今年度も年間を通して指導力向上研修を計画し実践した。	3	6月に最新の技術についての研修を受講した。研修で得た知識や技術を授業内で学生に伝えている。ASV車両やエーミング作業のツールも充実しており、ASV車の整備にも対応できる環境を整えている。外部診断機の不足は、補助金制度を活用し状況の改善を図ることができた。	特になし。

・職員の能力開発のための研修等が行われているか	職員に対し職務要件に応じた本部研修を実施している。その他の研修は個人で希望すれば研修に参加させている。また、世の中の動向に注視し、必要な資格を全員が取得するよう働きかけている。	4	令和6年度初め、全職員がテールゲートリフターの安全教育を受講し資格を取得した。また、各科・学年の必要性の応じ、適宜外部研修に参加している。研修発表の機会を通じ、全職員で情報を共有している。	・テールゲートリフターとはどのような資格か。
-------------------------	--	---	--	------------------------

* 4.適切 3.ほぼ適切 2.やや不適切 1.不適切 NA.当てはまらない

今後に向けての学校の考え方

- ・現在の本校職員ではブラジル、中国の職員がおり、今後ミャンマーから職員が加わります。
- ・国際オートメカニック科の資格関係では目標の 100%を達成できており問題はありません。
- ・パワーゲートが取り付けた車両が対象となり、事故が発生しないように特別教育を実施した。

(4) 学修成果

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・就職率の向上が図られているか	無料職業紹介所の届け出を行い、求職票を提出した学生を対象にキャリアマップを利用し就職斡旋を行っている。各企業のガイダンスは例年通り実施しており、面接指導や書類作成に関する指導は担当がきめ細かく行い、就職率の向上を図っている。	4	一部の企業に応募が偏る傾向が見られる。採用担当者の人柄やガイダンスの内容といった一時的な要素に左右されることが大きいと感じる。学校としては客観的な企業の情報を発信することで、多数の企業に興味を持ってもらえるよう指導している。	特になし。
・資格取得率の向上が図られているか	全面的に対面での資格対策を実施できた。本年度は例年と比べ合格率を高めることができた。コロナ禍ではリモート中心に資格試験対策を実施していたが一部対策では利用を継続した。	3	学生の資質を見極めながら、成果の上がる学習方法を常に検討し、合格率の向上を目指す。	特になし。
・退学率の低減が図られているか	年度初めに退学者の目標値を定め、各月の職員会議で状況を示し、組織的、計画的に退学者の減少に努めた。また、進路相談や普段の生活面での相談ができるよう外部カウンセリングを行う窓口を設置している。	3	利用状況件数が少ないため、カウンセラーの先生に予約がない時間帯は、ランダムに授業状況を見学していただき学生に対する指導において改善策等を提案していただく。	特になし。
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	企業との情報交換により把握するよう努めている。卒業生が技能コンクールの全国大会で活躍した情報を収集している。	3	今年度は企業実習時間を増やすことで企業との交流の機会が増え、入手できる情報が増加した。本年度は各企業内で技術大会なども行われ卒業生の活躍を見学することができた。ガイダンスの機会に採用担当者へ確認すると、留学生の活躍についての話が増えてきた。	特になし。

・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	企業の採用担当者や企業実習の担当者等に対して、学生時代に学ばせたい事を聞いてみると、知識や技術の習得以外に、人と人とのコミュニケーションを選択する方が多い。一方、本校の卒業生はコミュニケーションについては概ね良い返答をいただいている。	3	学生に対しては、自動車整備業や自動車製造業はすべてお客様あつての業種であることを理解してもらい、適正なお客様対応ができる接客授業を行い育成していく。	特になし。
--	---	---	--	-------

* 4.適切 3.ほぼ適切 2.やや不適切 1.不適切 NA.当てはまらない

今後に向けての学校の考え方

- 特に質問はなく、理解されていた。

(5) 学生支援

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	本校では無料職業紹介所を開設し、職業指導の基本方針、対策、情報収集、求人開拓のための企業訪問等を積極的に展開し多数の求人獲得に努力している。 また、電子求人システムを企業担当者、学生双方が活用することにより効率的な支援体制となっている。	4	企業により求人システムへの入力、利用法などシステムの理解度に差があるが、問い合わせに対し柔軟に対応できている。	特になし。
・学生相談に関する体制は整備されているか	学生からの相談(ハラスメント等を含む)は、学年担当職員が対応し、それを主任がカバーする。また、女性教員や保健室、奨学金・保険担当室や入試・進路課など気軽に相談できる窓口も用意され学生の相談体制も整っている。	4	学生が相談できる仕組みは整っている。次の課題は様々な相談に対応できる職員を増やすことである。相談できるスキルアップだけでなく、相談しやすいと感じさせることができる職員になる必要があるため各種研修の参加や職場内研修などで対応している。	特になし。
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	高等教育修学支援制度による入学金、授業料の減免や免除、下宿生への支援金供与、日本学生支援機構等の奨学金制度、本校独自の企業奨学・推薦制度等、学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しており専門学校評価基準を十分に満たしている。	4	各種減免により経済的負担は軽減される傾向にある。さらに、その各種減免と併用できる企業奨学金の利用により多くの学生が経済的負担の軽減を実感していると感じる。しかし、家庭により経済状況が異なるため、きめ細かい対応が必要になっている。	特になし。
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	怪我等に関しては常勤看護師による対応がなされている。また、メンタルケアについては専門のカウンセラーによるカウンセリングを受けることができる状態にある。	3	看護師が勤務していない時間においての対応に課題があるが、総務課と担任(担当)が対応し看護師の不在時間をカバーしている。	特になし。

・課外活動に対する支援体制は整備されているか	学生主体のサークル活動に移行することにより学生が主体的に活動を行っている。また、学校による支援体制も充実している。	3	サークル支援に対する職員の関わり合いについて、担当者や時間、待遇など検討を要る	・課外活動支援予算はどのくらいの規模か。 ・活躍を取り上げ多く興味を持つ仕組みづくりは。
・学生の生活環境への支援は行われているか	1人暮らしの補助により下宿生には1万円/月の支援金を供与している。(留学生を除く)	4	1人暮らしの補助、通学費支援により募集活動に効果を発揮している。本年度募集から在学中の支援となる交通費支援ではなく、父母等が期待する入学前の支援となる入学金減免(半額)に変更した。	特になし。
・父母等と適切に連携しているか	例年、後援会総会後に担任と父母等との個別面談を実施している。また、電話連絡等により父母等に学生状況の報告を行い、相互理解に努めている。	4	実現可能な範囲において十分な連携が図られており、特に課題を感じていない。	特になし。
・卒業生への支援体制はあるか	卒業後の状況についてはインターンシップの訪問に絡めて確認し、フォローアップに努めている。特に整備士資格の未取得者には資格取得の支援を強力に行っている。	4	卒業後、数年経った離職者に対する就職支援も行っている。少数ではあるが再就職に結びついている。	特になし。
・社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	企業ニーズの聞き取りを行い、それをカリキュラムに反映させている。職業実践専門課程として企業に授業を実施していただき企業ニーズを直接学生に伝える場も用意している。	4	業界関係者が気軽に企業ニーズを発することができる体制(HP等)を入試・進路課を中心に整えたい。	特になし。
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	高校に出向いて、自動車整備士の仕事や整備業界の紹介や自動車整備の模擬授業を展開している。また、「進路講話」「専門学校とは」「面接指導」などの各種指導を担当し高等学校のキャリア教育に積極的に参画している。	4	各種の講義、講話の内容を継続的に改善し、さらに効果と魅力がある内容にしたい。 変更なし	特になし。

* 4.適切 3.ほぼ適切 2.やや不適切 1.不適切 NA.当てはまらない

今後に向けての学校の考え方

- ・部活動からサークル活動に変更し学生自身での活動運営が自主性を成長させることを目的として行っている。また、実際サークル活動の成績が良くなっている。
- ・学校のホームページを色々なSNS等と連携し多くの皆様に興味を持っていただくように改善いたします。

(6) 教育環境

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	第一種養成施設の指定基準を満たし有効に活用していると判断する。教育用機器・教材に関しては中期経営計画に沿って年度毎計画的に購入している。今年度はジーゼル・ベンチエンジン、フロン・ガス充填・回収機、外部診断器等を設置した。	3	施設・設備の規模や整備内容は充実しているが、経年劣化のため修繕を要する場所が次々に現れ、その対応に時間と費用がかっている。	特になし。
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修について十分な教育体制を整備しているか	教育課程表に定められたインターンシップは実施した。海外研修については、今年度実施していない。	3	企業内定者については、全員が企業インターンシップに参加できるよう計画したい。	特になし。
・防災に対する体制は整備されているか	令和6年に災害対策対応マニュアルを改訂した。緊急時の教職員及び学生への連絡、安否確認体制についてグーグルを利用し確立した。安否確認等訓練を複数回実施、習熟度を高めた。	4	学生の安否確認に使用しているグーグルフォームの取り扱いについて、一部の職員に不慣れな場合が見られ、習熟が必要である。スマートフォンで対応できる簡易的な災害用アプリの利用を再検討したい	・学生、職員の安否確認をどのように行っているか。

* 4.適切 3.ほぼ適切 2.やや不適切 1.不適切 NA.当てはまらない

今後に向けての学校の考え方

現在、災害時には学校から Google フォームの安否確認を使用し発信を行います。

今後、新たな災害ツールがあった場合は検討したい。

(7) 学生の受け入れ募集

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・学生募集活動は、適正に行われているか	EV シフトされる業界の現状を伝え、今後必要となる一級整備士の必要性を伝えるとともに、企業奨学制度、企業の現役メカニックによる実習授業や資格取得成果の3つの特徴を柱に活動を実施した。また、通年において小学生や中学生への自動車整備の啓発活動も継続している。	4	県内や浜松工科のエリアに囚われない広報活動が必須となる。学校の強み、特徴を様々な広報ツールで訴求し、希望者への接触からリーチまで段階毎の丁寧な対応を心掛ける。また、メディアによる自動車整備士のイメージ向上の為の啓発活動など、様々な活動を戦略的に展開したい。	・学生数の増減はどうか。 ・業界にて、1級自動車整備士を望む声があるが学生はどうか。
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	資格取得状況や就職状況は志願者が専門学校を選択する上で、大変重要な判断材料になる。静岡県を中心とした学生募集活動において数値化した実績公表で教育活動の信頼性を高めるとともに、志願者や各高等学校への職員による説明やホームページ上で情報を公開している。	4	配布紙媒体や SNS(Instagram)、ホームページの「活動紹介」を活用し教育活動を分かりやすく伝え、本校の各種情報も継続的に発信したい。	特になし。
・学納金は妥当なものとなっているか	物価上昇に伴い、令和8年入学生より授業料を改定することになっている。	4	入学金、授業料、各種諸費用について見直しを行い学納金を改定済み。	特になし。

* 4.適切 3.ほぼ適切 2.やや不適切 1.不適切 NA.当てはまらない

今後に向けての学校の考え方

- ・学生数は募集定員を満たしており増減の影響は現在ありません。
- ・一級自動車整備士、希望者数の減少が見受けられます。今後の業界からの求められる整備士となれば、希望者も増加すると考えます。

(8) 財務

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	近年施設老朽化に伴う修繕費等が増加基調にあるが経費削減等に取り組み帰属収入の確保に努めている。	3	有形固定資産減価償却率も意識しながら投資の選択と集中を行う。中長期的には引き続き経費節減。	特になし。
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3ヵ年毎の中期経営計画に基づき年度の事業計画が作成されている。予算は経営目標を達成できるよう立案し、管理部門のヒアリングを通じて適正に決められ、その執行は有効性と妥当性を考慮して厳正に行われている。	4	キャッシュフローを把握し、事業活動収支差額への影響を十分に吟味した上で、必要な事業には投資できるよう管理している。	特になし。
・財務について会計監査が適正に行われているか	公認会計士により毎年、理事者及び実務担当者へのヒアリングと財務諸表各項目について適正に監査が行われている。	4	適正に行われている。	特になし。
・財務情報公開の体制整備はできているか	私立学校法に基づき制定された「情報公開に関する内規」により財務情報公開の体制は整えられている。	4	公開用財務諸表を金庫内に備付け、ステークホルダーに対する公開体制は整備できている。	特になし。

* 4.適切 3.ほぼ適切 2.やや不適切 1.不適切 NA.当てはまらない

今後に向けての学校の考え方

・特になし。

(9) 法令等の遵守

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	法令、設置基準や監督官庁の許認可、届出等定められていることが適正に遵守されている。 年1回、法人本部による業務監査及び監事による業務監査を行い、改善・指摘事項については改善策を講じ対応している。	4	特になし。	特になし。
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	個人情報保護規程を定め、個人情報が漏洩しないようになっている。また業務委託業者とは機密保持契約を締結している。また、年1回、個人情報保護監査責任者による内部監査を実施している。	3	内部監査における指摘事項。 就職活動での学生の個人情報取り扱いに関し、企業様との機密保持契約については再検討していく。	特になし。
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	自己点検・評価は、毎年見直しを行い、年度末には所属長による改善指示をしており、学校関係者評価による検証も行っている。	4	特になし。	特になし。
・自己評価結果を公開しているか	自己点検・評価の公開についてはホームページ等で公開している。	4	特になし。	特になし。

* 4.適切 3.ほぼ適切 2.やや不適切 1.不適切 NA.当てはまらない

今後に向けての学校の考え方

- ・自動車の法令遵守だけではなく、様々な角度から点検を実施し改善したい。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	中学生職場体験を受け入れ地域の中学校との連携を図っている。また、高校生エコラン大会では事務局として大会運営に携わり、会場の貸し出しも行い、静岡県工業校長会の連携を図っている。	4	社会人講座は地域貢献・社会貢献の一環として社会ニーズを捉え積極的に取り組んでいきたい。	・企業連携の中学生職場体験をバックアップしたい。
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	歳末助け合い募金を実施することにより学生がボランティア活動に参加することができている。	4	コロナによる行動制限が解除され、状況に応じたボランティア活動ができる様を検討し実施したい。	特になし。
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	小学生に対するお仕事講座を実施。また、お仕事フェアなどへの参加により地域社会の若年層にたいする講座を積極的に実施した。	4	地域社会からの要望に応えながら実施する必要があるため、ニーズの確認を引き続き行う必要がある。	・キャラクター、マスコットを作成し認知度をUPしてほしい。 ・製作車両展示を多くしてほしい。

* 4.適切 3.ほぼ適切 2.やや不適切 1.不適切 NA.当てはまらない

今後に向けての学校の考え方

- ・中学生職場体験、小学生への出前講座やカーフェスへの参加誘致を行い、若年層の認知度を上げ、将来の職業の中で自動車整備士としての選択を希望しております。
- ・静岡工科自動車大学校と長い学校名ですが、略称など今後検討したい。

(11) 国際交流

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか	業界の慢性的な整備士不足に対応するため、令和6年度入学定員60人から令和7年度入学定員を80名に、令和7年2月理事会にて変更し、受け入れ拡大を実施する。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・学費や生活費をアルバイトで稼ぎ通学している留学生が多く、昨年度に引き続きアルバイトが激減したため授業料の支払いに苦労する学生が多く見られた。留学生も対象となる奨学金制度の開拓が必要である。 ・留学生の入国規制が緩和されたため、日本語学校に留学生が増加し始めている。また、留学生増加に伴い、下宿先やアルバイトの斡旋を学校として紹介する必要性を感じている。 	特になし。
・留学生の受け入れ・派遣・在籍管理等において適切な手続きがとられているか	留学生の在籍管理等は適切に行われており、本年度も名古屋入国管理局から「在籍管理が適切に行われている専修学校専門課程」として適正校認定された。	4	ビザの更新、就労ビザへの変更許可や休退学があった場合の届け出などに学校として積極的に関わり、きちんと在籍管理を行った。	特になし。
・留学生の学修・生活指導について学内に適切な体制が整備されているか	学校組織図に留学生担当生活指導担当を明記し、学修・生活指導の体制を整えている。日常のことはクラス担任が対応し、必要に応じて科の主任や教務課長が対応する。	4	課税証明書の確認を行うことで入管法施行規則に定められた週当たり28時間のアルバイト時間を守らせるよう工夫している。	特になし。
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	自動車整備系学科では卒業時に整備士の国家試験を受験している。 産能大、放送大とのダブルスクールを取り入れている。一級自動車整備士動画を社会人対象に展開しており、受講生も増え始めている	3	一級試験合格率の向上が続いている。産能大は少数ではあるが順調に卒業者が出ていた。また放送大学の在校生も増えた。	特になし。

* 4.適切 3.ほぼ適切 2.やや不適切 1.不適切 NA.当てはまらない

今後に向けての学校の考え方

- ・留学生に対し、下宿先、アルバイト先の斡旋を学校として実施したい。